

月別市況

1 月

1月の取扱頭数は、牛10,412.5頭、豚26,704頭、1日平均取扱頭数は、牛548頭(前月比84.8%)、豚1,406頭(109.7%)であった。昨年末の出回り増の反動から、牛の入荷は減少、豚は順調。相場は、消費最盛期の前月と比べて安値となるが、前年からの高値基調の継続と、消費者の和牛・国産牛志向から、和牛はA4を除き、小幅の下げとなった。一方、乳牛は、量販店からの引きが強く価格を上げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,867円、乳牛(B-3)1,331円であった。豚生体(上規格)は、正月明けの消費の減退から、平均価格は、419円(前月比41円安)と下げた。輸入牛肉は、取扱量100.5トン(前月比45.9%)、平均価格は、769円で前月比56円高であった。

3 月

3月の取扱頭数は、牛11,250頭、豚27,947頭、1日平均取扱頭数は、牛563頭(前月比87.8%)、豚1,397頭(97.1%)であった。入荷は牛減少、豚横ばい。相場は、末端消費の停滞や、問屋筋の決算期の在庫控えから、和牛のA5を除き、和牛、乳牛とも大きく下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,822円、乳牛(B-3)1,226円であった。豚生体(上規格)は、年度末決算による在庫調整や輸入豚肉の投げ売りが散見されたことなどから、統落が必死の状況であったが、台湾での口蹄疫発生で相場展開が一変したことから、平均価格は、482円(前月比20円高)と上げた。輸入牛肉は、取扱量620.1トン(前月比89.2%)、平均価格は、1,862円で前月比172円高であった。

5 月

5月の取扱頭数は、牛11,211.5頭、豚26,817.5頭、1日平均取扱頭数は、牛534頭(前月比89.0%)、豚1,277頭(98.8%)であった。入荷は牛減少、豚は横ばい。相場は、悪天候などの影響で末端消費の動きがわかったことに加え、連休明け以降の伸び悩みから、和牛、乳牛とも下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,912円、乳牛(B-3)1,265円であった。豚生体(上規格)は、台湾の口蹄疫発生や欧州各国における豚コレラ発生が豚肉全般のイメージを低下させていることに加え、高値相場を嫌う量販店筋が特売に消極的になったことが主因となって、平均価格は、505円(前月比38円安)と下げた。輸入牛肉は、取扱量78.8トン(前月比13.2%)、平均価格は、794円で前月比891円安であった。

2 月

2月の取扱頭数は、牛12,180.5頭、豚27,339.5頭、1日平均取扱頭数は、牛641頭(前月比117.0%)、豚1,439頭(102.3%)であった。入荷は牛、豚とも順調。相場は、末端消費が鍋物需要を中心に堅調に推移したことや、量販店が依然として国産物の品揃えを強化したことから、和牛、乳牛とも堅調であった。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,865円、乳牛(B-3)1,363円であった。豚生体(上規格)は、上旬の産地の天候不順による出荷頭数の減少や、輸入豚肉が為替相場の円安傾向によるコスト高を強いられたことなどから、平均価格は、462円(前月比43円高)と上げた。輸入牛肉は、取扱量694.8トン(前月比691.3%)、平均価格は、1,690円で前月比921円高であった。

4 月

4月の取扱頭数は、牛12,597.5頭、豚27,145頭、1日平均取扱頭数は、牛600頭(前月比106.6%)、豚1,293頭(92.6%)であった。入荷は牛順調、豚は減少。相場は、消費税のアップに伴う消費の減退が懸念されたが、量販店をはじめ流通・小売筋の手当ては従来から国産物へシフトしていたことに加え、豚口蹄疫の発生による代替需要もあり、和牛、乳牛とも上げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,966円、乳牛(B-3)1,368円であった。豚生体(上規格)は、口蹄疫の影響による急騰から高値警戒感が色濃く出たものの、500円台の高原相場が続いたため、平均価格は、543円(前月比61円高)と大きく上げた。輸入牛肉は、取扱量597.3トン(前月比96.3%)、平均価格は、1,685円で前月比177円安であった。

6 月

6月の取扱頭数は、牛11,395.5頭、豚26,285.5頭、1日平均取扱頭数は、牛543頭(前月比101.7%)、豚1,252頭(98.0%)であった。入荷は牛、豚とも横ばい。相場は、梅雨入りしたものの空梅雨気味で、例年ほどの消費減退が見られなかったことや、中旬以降は中元手当が一部入ったことなどから、和牛は前月よりやや上げたが、乳牛は低調を脱せずやや下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,919円、乳牛(B-3)1,389円であった。豚生体(上規格)は、消費需要が上向いたことや、量販店などの特売が増えたことに加え、季節的に出荷頭数が減少する時期と重なったことから、平均価格は、589円(前月比84円高)と大きく上げた。輸入牛肉は、取扱量96.8トン(前月比122.8%)、平均価格は、734円で前月比60円安であった。

7 月

7月の取扱頭数は、牛12,221頭、豚25,674.5頭、1日平均取扱頭数は、牛556頭(前月比102.4%)、豚1,167頭(93.2%)であった。入荷は牛順調、豚は減少。相場は、季節はずれの台風を除くと空梅雨の天候が続き、例年より早めに焼き肉需要が到来し好調に推移したことから、和牛、乳牛とも堅調となった。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,949円、乳牛(B-3)1,385円であった。豚生体(上規格)は、国産物の引き合いの強さに加え、主要産地の集荷難を招いた関西地域からの手当が刺激材料となったことや、肉豚出荷頭数が少なめで推移したことが要因となって、平均価格は、621円(前月比32円高)と上げた。輸入牛肉は、取扱量132.4トン(前月比136.8%)、平均価格は、662円で前月比72円安であった。

9 月

9月の取扱頭数は、牛11,972.5頭、豚27,068.5頭、1日平均取扱頭数は、牛599頭(前月比103.1%)、豚1,353頭(108.7%)であった。入荷は牛、豚とも順調。相場は、大衆魚などの季節物の出回り増加に伴い前半は一服状態となったが、量販店等での秋期セールに向けた国産物の手当や、後半の連休による稼働日の少なさから、和牛、乳牛とも堅調となった。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,984円、乳牛(B-3)1,437円であった。豚生体(上規格)は、関税減免措置の解除が要因となって、中旬までは500円台で推移したが、中旬以降は全国出荷頭数が多く価格が統落したことから、平均価格は、493円(前月比40円安)と下げた。輸入牛肉は、取扱量116.3トン(前月比119.0%)、平均価格は、717円で前月比19円安であった。

11 月

11月の取扱頭数は、牛12,027頭、豚29,843.5頭、1日平均取扱頭数は、牛601頭(前月比95.1%)、豚1,492頭(100.9%)であった。入荷は牛、豚とも減少。相場は、例年に比べて温暖な日が続いたことから鍋物需要の出足が遅く、需要期を前に足踏み状態が月半ばまで続いたものの、量販店などの手当は従来と変わらないため、和牛はもちあいたった。一方、乳牛は需要の不振から、やや下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)2,013円、乳牛(B-3)1,345円であった。豚生体(上規格)は、全国出荷頭数が多いことや、消費の伸び悩みが要因となって、平均価格は、370円(前月比16円安)と下げた。輸入牛肉は、取扱量48.2トン(前月比53.9%)、平均価格は、793円で前月比12円安であった。

8 月

8月の取扱頭数は、牛11,611頭、豚24,907.5頭、1日平均取扱頭数は、牛581頭(前月比104.5%)、豚1,245頭(106.7%)であった。入荷は牛、豚とも順調。相場は、昨年のような病原性大腸菌による食中毒の多発という事態もなく、ステーキや焼き肉の消費が幾分回復したことや、Jビーフのキャンペーンなどもあって、和牛、乳牛とも堅調となった。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,979円、乳牛(B-3)1,444円であった。豚生体(上規格)は、豚肉の関税減免措置が先安観を顕在化させたことに加え、消費が極端に鈍いことや、量販店の特売が減少したことなどから、平均価格は、533円(前月比88円安)と大きく下げた。輸入牛肉は、取扱量97.7トン(前月比73.8%)、平均価格は、736円で前月比74円高であった。

10 月

10月の取扱頭数は、牛13,901.5頭、豚32,541.5頭、1日平均取扱頭数は、牛632頭(前月比105.5%)、豚1,479頭(109.3%)であった。入荷は牛、豚とも順調に増加。相場は、焼き肉から鍋物需要への端境期による消費の伸び悩みに加え、中旬以降の生鮮物の出回りが増加するにつれて、全般的に引き合いの弱い状況となったことから、和牛、乳牛ともやや下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,968円、乳牛(B-3)1,436円であった。豚生体(上規格)は、末端の売れ行きが低調なことや、全国出荷頭数が多いことに加え、輸入物の在庫が潤沢で荷余り感が強まったことなどから、平均価格は、386円(前月比107円安)と大きく下げた。輸入牛肉は、取扱量89.4トン(前月比76.9%)、平均価格は、805円で前月比88円高であった。

12 月

12月の取扱頭数は、牛16,118頭、豚31,795.5頭、1日平均取扱頭数は、牛672頭(前月比111.8%)、豚1,325頭(88.8%)であった。入荷は、年末需要期に入り、牛は順調、豚は減少。相場は、年末消費が不況感を反映して盛り上がり欠いたものの、最需要期へ向けた量販店等の年末手当が順調に入ったため、和牛は価格を上げた。一方、乳牛は年末の需要が和牛にシフトしたことから、価格を下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、(A-4)2,209円、乳牛(B-3)1,413円であった。豚生体(上規格)は、月明けから全国出荷頭数が少なかったことや、小売筋が国産物にシフトしていたことから、年末の手当で引き合いが強まり、平均価格は、486円(前月比116円高)と大きく上げた。輸入牛肉は、取扱量38.3トン(前月比79.5%)、平均価格は、1,065円で前月比272円高であった。